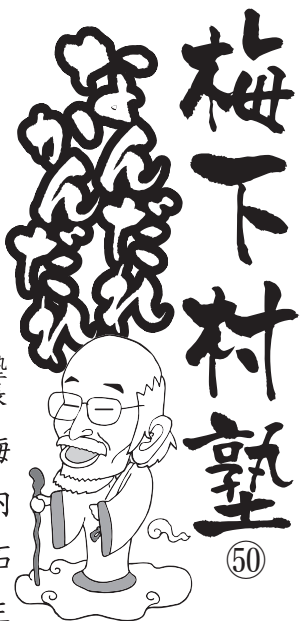


「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

(文化と魂の巡礼)

俳句 綾里中学2年
7月7日(土) 5面
『鮭たちの骸が灯す命
かな』

佐藤 晴巳

『わが里へ四年の長旅
秋の川』

木下 妙桜

『流れゆく水に負けじ
と川の鮭』

中島 鈴子

海洋を回遊して生まれ故郷の川に帰って来て、産卵をして、子孫を残して一生を終える鮭の生きざまを詠んだ句である。鮭は集団で回遊しながら命を落とすようないろいろな経験をjして、その知恵をいろいろな仕方jで子孫に伝えている。気仙地方の川には昔からのサケ漁の伝統が引き継がれている。綾里には生命の循環を生活の中に取り入れた文化の継承が生きているかどが中

学生の俳句に生き生きと表現されている。

この綾里中学校の生徒たちにはマスコミにぎわしている「いじめ」をどのように感じているのだろうか。

(おひらにゃー！おひらにゃー！)

いじめは人間の心のどこかに巣を作って息をjしてあります。六十年以上前の小学生時代にもいじめはありました。私も「仲間はずれ」という「いじめ」を受けた経験があります。今、このいじめを60年の時間のフィルタを通して、地域文化として考えて見るといろいろな「いじめ」の世界が浮かんできます。テレビやゲームのない昔には、子供達は野外で遊びました。年齢、性別、生活の तरीによっていろいろな仲間をつくって遊びました。

て、仲間の誰かが泣き出すこと、がき大将がこれを按配しました。が、被害者への打撃が大きすぎる場合には、(おひらにゃー！おらしらにゃー！おれは知らない、おれは知らない)とjって責任を自分から遠ざけました。面倒見の良いがき大将は親身になってやられた子供を慰める場合もありました。このよないいじめに遭遇していた小学校6年生の時に、毎朝、心に太陽をj持て(山本有三の詩)と雨にも負けず(宮沢賢治の詩)のクラス全員jでの朗読をさせられました。今になって思えば、この詩の朗読が「いじめ」に立ち向かうための自我の育成に導いたのではないかと気付きました。5月12日に気仙沼市、13日に大船渡市で開催した「森と水と命の惑星」国際会議にパネリストとして参加した千葉淳氏は盛小学校6年生の同級生jしたので、彼とjついろいろな話j合う機会をj持ちました。私は千葉 淳に尋ねました。東日本大震災の時に、ボランティアとして多くの遺体を心をこめて送り、それが国内外から注目され、賞賛されておりますが、そ

の活動の心根はどのよな経験が関係がありますかと。彼はいみじくも、小学校6年生の時の毎朝の朝の「心に太陽をj持て」と「雨にも負けず」の詩の朗読であったと言jつので、魂の奥から詠んだ詩は子供たちの心に深くしみ込むものなので

(鮎の恩返し)

『鮎釣りや 川面の映える 茜雲(詠み人知らず)』

還暦の祝いの同級会に出席しました。見事な鮎焼きの皿が膳に出ました。これは同級生の一人が自分で鮎釣りをjして同級生の膳に備えたのです。彼は少年時代から鮎釣りが得意でした。その彼が少年時代の「いじめ」のリーダーjだったのです。

彼は川釣りをしながら、故郷の川と川魚と心のつながりの世界を自分の心に育てたのだと思jいます。このよな心を育んだ気仙の河川と湾内の自然が巨大な湾口防波堤建築が遂行されると、湾内漁業と河川漁業にどのよな影響を及ぼし、さらに子供たちの心と魂の育成にどのよな影

を投げかけるのかが心配になります。
(ながいものにはまかれる)

7月14日の「世迷言」は滋賀県の大津市のいじめ問題から、日本の学校義務教育の問題の底に蠢いている教員組合の在り方に意見を述べている。自己保身、事なかれ主義、への戒めについて述べている。マスコミ、テレビ番組では、この学校の自己保身と、事なかれ主義の弊害に関してコメントーター達がいろいろしゃべってjているが、彼ら自身の重ねてきた実績がせい弱な場合が多いので、説得力が弱い。
「森と水と命の惑星」国際会議でも、地域文化価値教育の重要性について議論をし、梅下村塾でも述べてきた。国家百年の計は教育に在り」といわれている。
気仙地方の義務教育においては教員組合の力が大きいと伝えられている。これに危惧を抱きながらも、子供たちの心と魂への熏陶の場を築くことを教員の方々、教育委員会、地方行政そして住民の支援に期待したい。